

つなく、フリーペーパー

# Paper Smart

レッツパドルテニス！



今回のPaper Smartでは当院で手術をされた藤村正美さんにインタビューしました。藤村さんはこれまで全国各地でパドルテニスを経験され、現在は多治見市を中心にパドルテニスの競技や指導で活躍されています。今回は藤村さんがいつもパドルテニスをされている脇之島小学校の体育館へお邪魔してサークルに参加させていただきました。

藤村 正美 様

岐阜県パドルテニス協会会長  
2023年5月人工膝関節手術を受ける

## パドルテニスは楽しい！

—パドルテニスとはどんなスポーツですか？  
パドルテニスとは、アメリカ発祥の室内で行う公式テニスのような競技です。分かりやすく言うとサッカーに対するフットサルのようなテニスの縮小版のスポーツで、板状のラケット(パドル)とボールを使用して行うラケットスポーツです。

競技人口は日本全国で約60,000人とされており、多治見市でも盛んに行われています。運動量を調整できるのでジュニアからシニアまで楽しむことができますし、室内なので日焼けも気になりません。百聞は一見に如かず。まずは体験してみてください。

Masami Fujimura



—パドルテニスとの出会いを教えてください  
サラリーマン時代は通勤族だったので、休日にスポーツでの地域交流がしたいと思い近くの体育館に赴き、東京赴任の時にパドルテニスと出会いました。かれこれ30年前から妻と一緒にやっています。休日はほぼ地域の体育館にてパドルテニスをやっていました。練習後の仲間との懇親会も楽しくて、たくさんのパドル仲間ができました。

交流試合にて東京全区、埼玉、千葉、神奈川とパドルテニスを通して出会った友人とは現在も交流が続いています。

—手術をしようと思ったきっかけは何ですか？  
5年程前、山歩きをしていて下山中に膝を痛めました。帰宅後すぐに整形外科で膝の水を抜き、ヒアルロン酸の注射、飲み薬、靴底シートなどの治療をしました。しかし膝の痛みが強くなり、溜まった水に血液が混じり、治療間隔が短くなって医師からはこれ以上は手術しかないと言われ他の病院を紹介されました。しかしそこでも手術はせず飲み薬での治療で、普段は痛みがないもののスポーツ時に痛みを感じていました。そこでどうしてもパドルテニスがしたいと思い、パドル仲間が手術をした話を聞き、スマートクリニックに相談に行きました。そして院長先生と対話し、迷う事なく即手術を決めました。9月17日から徳島県鳴門市で行われる全国大会があり、それに合わせて手術の日程を決めました。

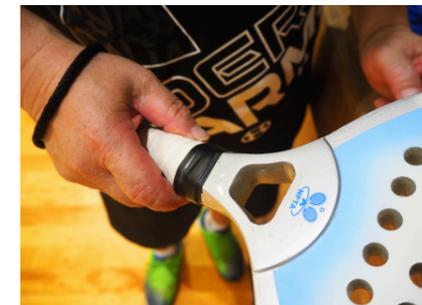
—手術をして良かったことはありますか？  
パドルテニスができる、山歩きもできる。諦めていたこと、夢が実現しました。多治見に帰ってきて、老後の生活習慣に、パドルテニスの普及活動に、パドル仲間を増やすという目標が実現しました。皆さん初めはパドルテニスって何？という状態から始めて、今では多治見市で100名を超える方が楽しまれています。市役所やレクリエーション協会にも応援してもらって、楽しさに加え健康づくりのお手伝いをさせてもらったことは本当に良かったです。

—手術後辛かったことはありますか？  
辛かったことはありません。痛みは予想通りでしたが、薬にて緩和されました。両足同時の手術なのに10日間の入院生活、リハビリ期間は予想以上に順調でした。術後3週間でパドルテニスを再開しました。3ヶ月後からは、交流試合にも参加できるようになりました。まだ階段の上り下り、ランニング、ジャンプは思うようにはいきません。

—これから手術をしようと考えているゲストに一言お願いします  
痛みを我慢して生活を続け気持ちまで沈んでは、出来ることを諦めざるを得なくなってしまう。術後は痛みがありますが、だんだん痛みが弱くなっていきます。良くなって痛みが減って痛みがなくなると、体を使ってスポーツや趣味など新しい挑戦もできます。



パドルテニスの体験・お問い合わせはこちらまで！  
日本パドルテニス協会HP



↑藤村さん(写真右)とスマートクリニックで手術をされた加藤さん(写真右から2番目)

この日、ゲストVSパートナーの夢のエキシビジョンマッチが実現しました。お二人とも手術をしたとは思えない軽快な足捌きと、練習の賜物である正確なショットで、結果はパートナーチームの惨敗。パートナーチームは人生初めてのパドルテニスの体験だったので当然の結果でした。そんな私たちにラケットの持ち方から丁寧に教えてくださった藤村さん、サークルの皆さまに熱く感謝します！

### 編集後記

パドルテニスは実際に体験してみると、テニスよりも気軽に楽しめる大変楽しいスポーツでした。(やみつきになり後日プライベートでもお邪魔しました)  
また、何よりも術後のゲストと試合ができたことはとても感慨深く記憶に残る素晴らしい経験でした。退院された後にご自身の人生を楽しむ姿、生き生きとされている姿はまさに人生における幸せとは何か？という問いの答えのような気がします。自分で決めて手術をして、そしてやりたいことをやる。まさに手術の先にある希望を垣間見た瞬間でもありました。